（様式３）

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究（小・中学校）」
平成２４年度委託事業完了報告書
【推進校】

道府県名	山　口	番号	１８

推進校名	山口県宇部市立神原中学校	研究主題	Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ型

○　推進校として実施した研究内容

１．重点課題への取組状況

平成 22 年度より宇部市の「学びの創造推進事業」を受けて「学びの質」を高める授業のあり方について研究してきた。本年度はさらに全教職員が日常的に授業公開・研究に取り組む体制を強化し、より主体的・意欲的な学習の実現をめざすとともにキャリア教育の充実、学習環境づくり、生活・学習習慣の定着や小学校・家庭・地域等との連携にも焦点を当てて確かな学力の育成に取り組んだ。

◆学力向上をめざした６つのアプローチ

◇キャリア教育の充実（何のために学ぶのか、学ぶ目的の明確化のために）
〈できることを知る･したいことを見つける･社会が求めることを自覚する〉
キャリア教育全体計画･指導計画を見直し、指導の目的･ねらいを明確にした実践を積み重ねることで、社会的･職業的自立に向けて必要な基礎的･汎用的能力と３つの視点を体系的に育む。

○指導方法の工夫改善
学び合いのある授業づくりに向けて探究的な学習課題を提示し、学習形態の工夫とともに「聴く-つなぐ-もどす」という役割を意識して、生徒の学びを支援する。

○研修体制の充実
３つの研究班（学び研究班･評価班･学習支援班）を編成し、自己課題を明確化する。月１回の授業研究を充実し、講師を招いて年３回の公開授業研究会を実施する。

◇連携･協働
小学校への出前授業や共通取組事項の実施･合同研修会の開催等小中連携の充実、高校･大学や保護者･地域とのつながり強化等をとおして、５つのアプローチの質を上げる。

○学習環境の整備
生徒作品の展示･掲示物の工夫や定期テスト前の「質問タイム」、自主学習室の開放、さらに長期休業中の学習週間（補充学習）の実施など、生徒の学習を刺激･深化する環境を整える。

○生活･学習習慣の定着
朝の読書活動の推進や保健委員会と連携しての生活リズム調査定期実施、食育の啓発や自主学習ノートの提出など、生徒の生活の安定と学習の習慣化を図る。

＜研究仮説＞

６つのアプローチの内容と質を高め､組織的な取組を進めることにより、一人ひとりに確かな学力を育成することができる。

◇【キャリア教育の充実】

３つの視点（できることを知る・したいことを見つける・社会全体が求めることを自覚する）からキャリア教育充実の全体計画・指導計画を見直す。指導の目的･ねらいを明確にした実践を積み重ねる。

○【指導方法の工夫改善】

指導方法の工夫･改善として学び合いのある授業づくりをめざす。男女混合の４人組の学習形態で、実物などの教材を活用し、探究的な学習課題を提示する。教師は「聴く-つなぐ-もどす」という役割を意識して支援に徹する。

○【研修体制の充実】

３つの研究班（学び研究班･評価班･学習支援班）を編成し研究を進めるとともに、講師を招いての年３回の公開授業研究会や毎月の授業研究(学年研修会)を充実する。研究協議では生徒の学びの事実を徹底的に検討する。その後、授業力について自己課題を明確にして次の授業に臨む。

○【学習環境の整備】

教室内外に生徒の作品や制作物をできる限り展示し、学ぶ雰囲気作りに努め、意欲を高める。「学習の手引き」「シラバス」を年度初めに配布し、学び合いのプレゼンテーションを行うことで、学ぶ意欲をもたせ、学びへの取り組み方を周知する。また、定期テスト中の「質問タイム」の設定や自主学習室の開放、さらに長期休業中の学習週間（補充学習）の設定で、きめ細かな支援を継続する。

○【生活・学習習慣の定着】

生活リズムを整え、自主学習ノートの提出や「やまぐち学習支援プログラム」の宿題としての活用などで学習習慣を定着させる。読書活動の推進、食育の充実を図る。

◇【連携・協働】

小学校との連携（多くの教科で出前授業を行い、共通取組事項の実施や合同研修会を開催する)、高校･大学等との協働（より専門性の高い講座を受講する)、保護者･地域との連携（学校支援ボランティアの活用や地域行事に積極的に参加するなど）を通して「連続性」と「一貫性」を高め、取組の質を上げる。

（質問タイムの実施）

（学年研修）

（小学校への出前授業）

２．調査研究の成果の把握・検証

①研修のまとめ

学び合いの理論や指導助言の内容を繰り返し全員で共通理解する。各教科の学力向上プランに基づき、授業を検証･考察･改善する。また、「研修だより」で学校全体の課題を振り返り、改善点を指摘するとともに、年度末に「研修のまとめ」を発行する。

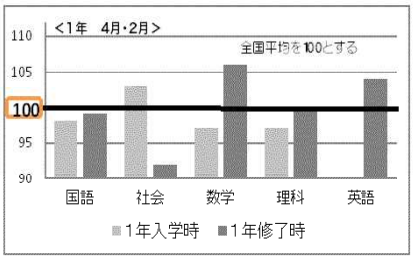
②学力の検証

全国学力調査や標準学力検査(CRT、NRT)、やまぐち学習支援プログラムなどの評価問題や定期テストを活用し、客観的なデータをもとに結果を分析し、授業に生かす。

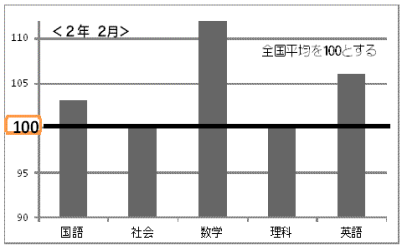
③意識調査

生徒･保護者･地域の方に授業評価や学校評価アンケート、学びに関するアンケートを行う。課題が見つかれば検討･協議して教育活動の改善を図る。

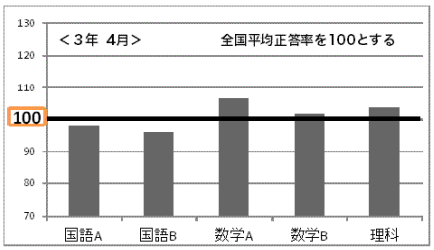
＜１年次 入学当初と修了時の標準学力検査結果比較＞



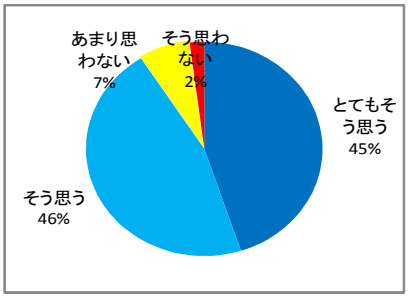
＜２年次 修了時の標準学力検査結果＞



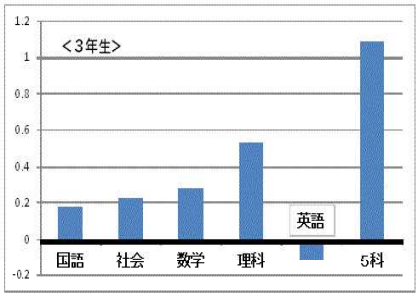
＜３年次　全国学力調査結果＞



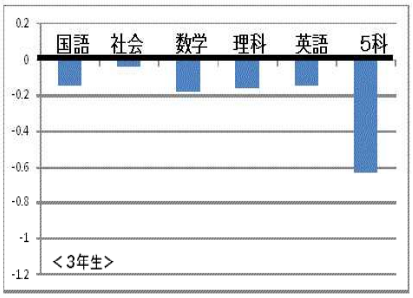
<学校が楽しい>



<「関心・意欲・態度」Aの数の増加数平均>



<「関心・意欲・態度」Cの数の減少数平均>



◇成果・検証

○　現３年生の学力推移を見ると、入学時に全国平均を上回っていたのは社会だけであったが、１年次の修了時には国語・数学・理科・英語が全国平均を上回るか、ほぼ同程度に向上した。教科によっては課題はあるが、２年次、３年次と順調に力をつけてきた。日々の意図的・計画的なきめ細かな支援が学力の向上にもつながっていると考える。

○　生徒のアンケートによれば、「学校が楽しい」「友だちの話をしっかり聴ける」「学び合いで分かることが増えた」と答えている生徒が９割に達している。学び合いのある学習が生徒に大変好評であることがわかる。

○　現３年生の１年次学年末と３年次２学期末の観点別評価「関心・意欲・態度」におけるＡの数を比較すると、１人あたりのＡの数は英語以外の全ての教科で増加している。また、Ｃの数は社会はほぼ一緒だが、そのほかの教科は全てで減少している。これは生徒の学びを教師が粘り強く支援し、適切な取組を継続してきた成果と言える。保護者からも学び合いを支持する声が増えてきている。

○　学年によって差はあるが、将来の夢や進路を具体的に決めていない生徒が約３割いる。「できることを知る」「したいことを見つける」「社会が求めることを自覚する」といったキャリア教育の視点を、全ての教育活動においてこれまで以上に意識させることが必要である。

３．今後の課題

○　「何のために学ぶのか」という目的意識を明確にし、より一層学習への意欲や真剣さ、積極性を獲得させる。　→　**キャリア教育の充実**

○　学力分析結果を踏まえ、４つの視点（指導方法の工夫改善、研修体制の充実、学習環境の整備、生活・学習習慣の定着）の内容をバージョンアップして、PDCAサイクルを意識し取組の質を上げる。そのことで生徒の学力もさらに向上していく。
→　**４つの視点の内容の拡充と取組の質の向上**

○　上記を実現させるためにも９年間、場合によっては１２～１５年間というスパンで子どもを育てるという幼・保小中高(大)の連携や、家庭・地域社会との協働の強化が重要である。こうした「連続」と「一貫」をキーワードにした緊密な連携こそが、一人ひとりの学力向上を基盤として支える。
→　**さらなる連携・協働**

○　学力向上プラン・教科別学力向上プランを絶えず見直し、実践内容の質を上げるとともに実効性を高める。　→　**計画的・体系的な取組**

○　教員同士が意欲的に学び合う研修体制づくりのために、日常的な公開授業の実施・研修協議の工夫、改善指導案の作成等、より一層進める必要がある。
→　**学び合う同僚性の構築**